

## あとがき

今年も、また、たくさんのリレーメルヘンが出来上がりました。

今年は、各務原市の子ども達が作品をスタートさせ、敦賀市の子ども達がそれをバトンタッチしました。作品のどこからバトンタッチをしたのか、全く分かりません。二つの市の子ども達は、学んでいる学校も住んでいる町も飛び越えて、一つの作品を紡ぎました。何てすてきなことでしょう。この取り組みこそが、メルヘンの世界のようなのです。

どの作品を読んでも、子ども達の想像力の豊かさに感心するばかりです。話の展開や登場する人物像に、両市の子ども達の創造力があふれています。時空をいともたやすく行き来するメルヘンの世界に、読み始めるとあっという間に引き込まれてしまいました。

やさしくて、知恵と勇気がある男の子や女の子。地球の温暖化に目を向けたり、いじめの解決に立ち向かったりする登場人物。空想だけでなく、自分たちの学校生活や日常のくらしもしっかり描かれています。メルヘンの世界で、仲間と冒険をする登場人物は、両市の子ども達そのものだと思います。書き手の子ども達の美しい心やたくましさに、明るい未来を見る思いです。

完成した作品を読み合った子ども達は、そのでき映えに改めて歓声を上げたことでしょう。今年も、各務原市の子ども達が敦賀市を訪問します。直接言葉を交わして心を伝え合うことで、より大きな感動が生まれることと思います。

最後になりましたが、素晴らしいリレーメルヘンの誕生に尽力いただきました両市図書館の皆様と各学校の先生方に、心からお礼を申し上げます。そして、作者である子ども達に大きな拍手を送ります。

各務原市立鶴沼第一小学校長 清水 孝子

## あとがき

今年もリレーメルヘンが完成しました。

ここに載せられている作品のほとんどが、十一～十二歳の子によるものです。どの作品にも、その年齢だからこそ書ける瑞々しい感性があります。一人一人が何かを生み出していくことに楽しさや喜びを感じているということが、しっかりと伝わってきます。そして、そこには大人が書く文章に負けないほどの価値と面白さがあります。

ここ数年間の傾向として気づいたことは、子どもたちの世界が、今生きている現実世界から、ときめきや希望を持ちながら新しい別の世界に気持ちが動いているということです。もちろん、この作品集のジャンルは「メルヘン」ですから当然と言えば当然なのですが……。登場してくる人物像は、魔法使いや魔女、英雄戦士たちが多いようです。でも、不思議と不気味さや不可解さはなくてむしろ、その登場人物が温かく優しい性格の人たちであることがとても興味深いことでした。

それは、皆さんの心の中にある優しさや将来への夢がそのまま表れているのでしょう。そして、それらは私たち大人へのメッセージとして伝わってきます。

野球の松井秀喜選手は、野球と同じくらい読書が大好きな子どもだったそうです。今

も、自宅や遠征先のホテルではよく本を読んでいるということです。読書と野球という一見違った世界のように感じるかもしれませんが、彼の野球の能力は、文章を読んだり書いたりすることで、物事を整理し論理的に判断できることへの力になっているように感じます。読書や文章を書くことは、彼のように将来何かの形で生きてくると思います。両市の子どもたちがこのリレーメルヘンを読んでくれることで、さらに読書好きになってくれることを強く願っています。

最後になりましたが、このように素晴らしいリレーメルヘンの完成に関わって下さった両市図書館の皆様と各学校の先生方に、心からお礼を申し上げます。そして、作者である子どもたちにも敬意を表したいと思います。

敦賀市小学校教育研究会学校図書館部長 増門 玲子

## 発行によせて

敦賀市と各務原市が、平成元年に友好都市になってから十八年にもなります。スポーツや文化、観光、イベントなど、さまざまな交流を通して何千人、何万人、いったいどれぐらいの市民が行き来したことでしょうか。

その交流活動の中で生まれた両市の小学生によるリレーメルヘンも今年で六回目。見知らぬ子どもたちが心を通わせ、世界に一つしかない物語をつくってくれました。宇宙や未来の話、魔法の話、すぐそばにありそうな話。

作品の一つひとつを読み始めると、いつしか夢の世界や想像の世界に誘われ、いろいろな登場人物に早変わりしてしまいました。

両市の友好の架け橋となっているリレーメルヘンは作者の心に、読む人の心に大きな宝物として永遠に残ることと思います。

すばらしい十八作品の作者のみなさん、お世話くださった先生や関係者のみなさんに心から感謝いたします。

各務原市立中央図書館長 浅井 修三

## あとがき

平成十四年度から始まった「リレーメルヘン」が、第6集目の発行を迎えました。

今年は各務原市の小学生から敦賀市の小学生にリレーされ、その作品は読む人を夢の中へ誘ってくれます。大人には考えつかないこどもたちの自由な発想には感心します。

お互いに顔も知らないのに前半の話を引き継ぎ、後半を考える。前半を考えた人には、どのように話が進んでいくのかわからないというリレーメルヘンならではの楽しみと言えます。

作品集が完成したら交流会が予定されています。

双方の作者たちが感動のご対面をして、どのような話し合いが行われるのかこれも楽しみです。

全国的にこのような取り組みをしている市町村があるのかどうか把握しておりませんが、とてもおもしろいと思っています。

最近、その日の出来事や考えていることを友だちと簡単にメールでやりとりするという小学生が増えてきているということを聞いておりますが、きちんと原稿用紙に文字を書き、何度も読み返し文章を完成させていくという作業も大切なことです。これからもたくさんの本を読み、人に正しく伝える文章づくりを学んでください。

今回のリレーメルヘンに参加して下さった小学生の皆さん、楽しいお話をありがとうございます。そして、ご指導いただいた先生方、作品集の発行にお力添えくださった皆さんに心からお礼申し上げます。

敦賀市立図書館長 倉谷 茂